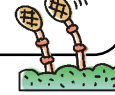


4月の主な行事



1日	: エイプリル・フール	14日	: オレンジデー
7日	: 世界保健デー	18日	: 発明の日
8日	: 花祭り	20日	: 通信記念日
10日	: 駅弁の日、女性の日	22日	: アースデー
12日	: パンの記念日	29日	: 昭和の日



今月のかわら版 : 1 「日本のサクラ」



春といえば桜。

桜は、春を象徴する花として、日本人になじみが深く、日本で最も有名な花です。桜のつぼみがほころび始めるといつ開花宣言がでるのか、いつ満開になるのか、わくわくしてきますね。満開時の樹下でのお花見は、いまや国民的行事とさえいえるほどになっているのではないでしょうか。

「古事記」「日本書紀」にも桜に関する記述があり、「万葉集」にも桜を詠んだ歌があります。平安時代以後の日本では、「花」といえば「桜」のことを指すように昔から国花のひとつとして愛でられていたようです。

◆「サクラ」の名の由来

「サクラ」の語源は、ひとつには「咲く」という動詞に複数の意味する「ら」を加えて名詞となったと云われています。

また、日本最古の書「古事記」に登場する女神「木花開邪姫（コノハナサクヤヒメ）」が、サクラの精だったとの伝承から、「サクヤ」が転化したのではないかという説もあります。

◆日本のサクラ

日本の桜は、ヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガンなど10種類ほどの自然種を基本として、交配種を含めると数え切れないほどの園芸品種があり、現在でもその数は増えています。

その中で、最も普及しているのが、「染井吉野（ソメイヨシノ）」です。日本の桜の7～8割がソメイヨシノと云われています。

ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの交配で生まれた品種で、江戸時代末期に江戸駒込の染井村の植木屋が売り出したと伝えられ、花つきがよく、成長が早いことから、またたく間に全国各地に広まりました。

桜の種類によっては、花と葉がほぼ同時に開くものがありますが、ソメイヨシノは、先に花が咲き、後から葉が出ます。薄いピンク色をしたやや大きめの花が枝にびっしりつき、花が咲くと他の桜より豪華に見えることも普及した理由でしょう。

気象庁の桜開花予報にも、最も多く、人気のあるこのソメイヨシノが選ばれています。各地で基準となる木が決められており、その木に5～6輪の花が開いた状態になった時に各地で開花宣言が出されます。

東京では、靖国神社にこの木があることは有名ですね。

桜は散りの美しさもまた見事なもの。ぱっと咲いて、ぱっと散る。いっせいに咲きそろう桜ゆえに散りゆく姿がまた日本人の心を惹きつけるのかもしれない。

今月のかわら版 : 2 「2009年皆既日食」

2009年7月22日、この日日本国内の地域で皆既日食を見ることができます。日食とは、月が太陽の前を横切るために月によって、太陽の一部または全部が隠される状態をいいます。

日食のメカニズムを知らない昔の人々にとっては、不吉なことが起こる前兆と恐れられていたようです。日本にも天照大神が怒って、天岩戸に引きこもったため、世界が真っ暗になり、さまざまな災いが起こったという神話があります。

日食には、皆既日食、金環日食、部分日食の3つがあります。

◆皆既日食…太陽と月が完全に重なる現象です。月のみかけの大きさが、太陽より大きい場合、太陽全体を覆い隠し、真っ暗ではありませんが、昼間でも夜のように暗くなります。

◆金環日食…太陽と月が完全に重なりますが、月のみかけが太陽より少し小さく見えるので、太陽の光が環になって残り、金のリングのようになります。

◆部分日食…月が太陽を部分的に隠す現象です。前記二つの日食の前後にも起こります。

月のみかけの大きさの変化は、月と地球の距離が一定でないために起こり、その結果、太陽が月に隠れる部分が変わり、皆既日食、金環日食、部分日食が発生します。

部分日食なら、国内でも2～3年に一度の割合で見られますが、皆既日食となると数十年に1回しか起こらず、日本国内で観察できるのは、1963年以来46年ぶり。但し、今回皆既日食を見ることができるのは、鹿児島県のトカラ列島、奄美大島北部、種子島南部、屋久島など特定の離島のみ。本土では、皆既日食になる地域はありませんが、部分日食を楽しむことはできそうです。

太陽の光と熱はとても強いので、肉眼で見ると目を傷めてしまいます。太陽（日食）観察用の専用機材を装着して、安全な観察を行ってください。

今世紀最大の天体ショー。見逃すわけにはいきませんね。

